

第4回 長浜市学校園の適正規模・適正配置検討委員会 要点録

日 時 令和6年8月26日(月)14時27分～16時37分

場 所 長浜市役所 5-B 会議室

出席者 (委員) 水本座長、大橋副座長、西川委員、西田委員、中川委員、
水谷委員、福永委員、辰野委員

(事務局) 内藤部長、山岡次長、高山次長、為永管理監、藤田課長、
稲葉課長代理、成田室長、廣部副参事、藤田指導員

欠席者 塚田委員、森委員、文室委員、喜田委員

1. 開会 (14時27分)

<部長あいさつ>

2回の現場での視察および本日お示しするデータをもとにワークショップを実施する。
みなさんの率直な意見をお伺いしたい。

<欠席者の報告>

2. 議題

(1) 学校園を取り巻くデータ等から見える姿について

<事務局説明資料1> (14時29分)

<質疑応答> (14時55分)

- ・市民意識調査で、よくわからないところがある。とても高い、やや高い、高いのレベルがおかしい。非常に分かりにくい。ニーズ得点を直接入れた方がわかりやすい。経年変化もわかりやすい。議論を進めるうえでも、その方がよい。
→ 13.5以上がとても高いとした。年度によって、色別の数値が異なっていた。申し訳ない。
- ・受ける印象がずいぶん違ってくるので、そのあたり精査していただけるとありがたい。
- ・不登校の発生率、実数はどのようにになっているか。全国平均と比べてどうか。
→ 資料E 6ページを提示
- ・国や県の数値に比べると低いということか。
→ そうなっている。
- ・長浜スタイルの具体的な手立てはどのようにされているのか。
→ 小中学校への研修や、年2回の学校訪問の場面で指導主事が指導している。
- ・この規模の市での指導主事の数としては多いと思う。滋賀県が教育事務所を持っていない分、市町の指導主事が多くなっているということだと思う。ここは強みなので、今

後の議論に活かしていただければ。

→ 主幹級で 15 人の指導主事がいる。

・かなり多いと思う。

→ 少し補足したい。校内研究を長浜スタイルに準じた形で実施している。市内の学校が同じ方向性を向いてやっていけるようにとの思いからである。不登校については、潜在的にもっと隠れていると考えていて、そのあたりを含めると全国並みになるのではないかと考えている。

・学びの多様化学校を希望している学校はあるのか。

→ 学校からの希望でなるわけではない。市として検討していくことになる。今ある学校を移行するのではなく、新たに設置することになる。

・資料1 P21-22 のシミュレーション。形式的にシミュレーションすることに意味があるのか。国の方針で地域性に触れている。資料1 P3 には、学校は地域のコミュニティーの核、資料1 P4 には、コミュニティーの核としての学校。現時点においては、旧町単位で考えるのが現実的ではないか。とても違和感を持つ。資料1 P24 で面積が広範囲であることを長浜市の特徴として取り上げている。旧町単位をこえての学校となり、通学等現実的ではない。意図は分かるが、財政面での意図のみが出てしまっている。経験からすると非常に批判を受けることになる。意見として述べておく。

→ 乱暴な数字だとは思っている。子どもの数が減っていることは、第1回会議で説明している。よりイメージしていただくための目的だった。これからの検討において、旧町単位等について、ご意見をいただきたい。この資料を見て、ざつぱらんな意見をいただきたい。

・特例校でいくと、校内フリースクールみたいな位置づけのものは市内にあるか。

→ 校内フリースクールとまではいかないが、加配教員がついている学校については、別室での対応をしている。

・特別なカリキュラム、子ども一人一人に合わせたカリキュラムを実施しているところもある。いろいろな可能性があることを視野に意見をいただきたいと思う。

(2)ワークショップ「子どもが幸せになる学校園とは」

＜事務局口頭にて説明＞(15 時 21 分)

＜意見＞

・30 年というと想像しにくい。せめて、今0歳の子どもが 15 歳になり、学びの連続性が考えられる 15 年の方がよいと思う。

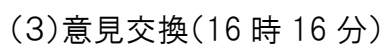
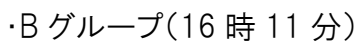
・時間軸も自由に考えてほしい。

＜ワークショップ＞15 時 27 分

・15 分×2 クール

＜休憩＞16 時 2 分-5 分

・Aグループ(16時8分)



- ・視察に行って、永原小、余呉小中を見学した時に、自身の小学校時代と比べて、愕然とした。グループ討議をしているのかと思ったら、それがクラス全員で驚いた。ちょっとずつ合併するよりも、長浜市で1か所なりに学園都市を作るぐらいしないと、付け焼き刃になってしまうと思う。
- ・長浜市が、人口減少社会を受けて、今後どのようなまちづくりをするのか。そのなかのひとつが教育。
- ・時代が変化しても「学校に行く楽しい」をつくることが大事。そこに地域とどのように共存していくのかを考えていく必要がある。PTA の存続、学校運営協議会、コミュニティスクールの在り方も考えていかないといけない。
- ・ふたつのグループで、全然違う話になっていて面白い。何が幸せかは人それぞれ。その答えもひとつではない。子どもたちに関わる者が幸せでないといけない。学園都市を作る話があったが、ソフト面もハード面の見通しも考えていかないといけない。
- ・保護者として驚いたことも多かった。地域とのかかわりも、先生の負担を減らすことにおいても大事。スクールガードを有償ボランティアや仕事とする等、しっかりとした子どもの見守り体制があるとよい。
- ・小さな学校でイヤなことがあったら、仲直りしても、ずっと引きずることもある。その環境を変えるため、中学校受験等を検討する人もいる。子どもの幸せには、親の影響も大きい。保護者も取り込んで考えていかないといけない。
- ・今年 150 周年を迎える学校が多い。200 周年はできないだろうという声もある。保護者や地域の方の、教育者とは違う視点の考えを聞くことも大切。大胆な転換がいろいろ。この 50 年で学校も随分変わるだろう。社会全体の仕組みも含めて大きな変革が必要な時期なのかもしれない。
- ・学校が多くのことを抱えすぎて、教師の負担になっている。ゆとりや時間がなく、「教える」ことが難しくなっている。先生に余裕がなければ、先生の子どもへの対応も変わってくる。その状況が、子どもの幸せだとは思わない。先生が余裕をもって子どもに接することは、どの時代においても望ましい姿であり、いかにその状態を作るか。地域や保護者の協力も必要。どのようにしていくか今後の課題。

(4)総括(16 時 30 分)

- ・いい論点が出てきた。これをまとめる事務局に課題が投げかけられているが、行政任せだけでもいけない。学校には、学校運営協議会、コミュニティスクールもある。学校でも議論をどんどんしていけるといい。
- ・教育資源も様々ある。教育資源を学校間で提供しあうことも考えられる。明治時代、長野市や松本市は、全市1校制としていた。本校を1つにし、ほかは分校の扱い。統合すると先生の数も減る。統合しなければ、先生の手数は減らない。たくさんの先生を抱えて、上手に使う方法もある。もちろん、小さな規模の学校ではできないこともある

が、どこかに集まって工夫するなど、アイデアはたくさんある。そのあたりのことも考えていくと可能性はまだまだある。長浜市で使える教育資源はどれだけあるのか。地域といっても、住民だけでなく、企業やNPO、高校もある。長浜市の教育資源の情報提供があると、まだまだアイデアは膨らむだろう。

・クラス替えのできない学校はどうしても出てくる。クラス替えがなくても人間関係が固定化しない、多様な学びができる等の方法はないのか。距離的にこれ以上統合できない状況も出てくる。それでも毎日楽しいと学校に通うような授業づくりや学級経営を開発できないものか。学校をまとめる以外に、ソフト面としてそのようなこともあるのではないか。

・今後、事務局が取りまとめるにあたって、ヒントはいくつかあったのではないか。

(5)その他(16 時 36 分)

・次回第 5 回会議は、9 月 10 日(火)視察

3. 閉会(16 時 37 分)